

【静岡新聞 朝刊 9面(県内政治面)】

医療ビッグデータ活用へ

県社会健康医学
基本計画策定委 課題など意見交換

社会健康医学の研究
推進に向けた県の基本
計画策定について協議
する委員会(委員長・
本庶佑京都大高等研究
院特別教授)は5日、
第2回会合を静岡市内
で開いた。基本計画の
四つの柱のうち、医療

ビッグデータの活用な
どに関して意見を交わ
した。
医療ビッグデータは
①臨床現場の医療デー
タ②医療保険者が持つ
健診データの二つに分
けて活用方法や課題を
検討。①については、

診療経過を記載したカ
ルテを医療機関同士で
共有、閲覧する場合、
個人情報のため患者の
同意を得るのが難しい
との指摘があった。こ
のため、医療データの
共有が県民の健康に還
元されることを示し、

情報の集約化に理解を
得る必要があると確認
した。

本庶委員長は「県民
のコンセンサス(同意)
づくりが重要。事業は
長期的な視点で考えつ
つも、(すぐに)県民
が恩恵を感じられるよ
うにしなければいけな
い」とまとめた。

(政治部・山下奈津美)

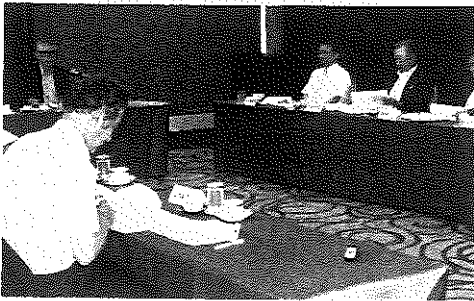
【中日新聞 朝刊 14面(県内総合面)】

「健康医学」推進
専門家委が会合

基本計画策定へ

県は5日、県民の健
康寿命をさらに伸ばす
ための学問「社会健康
医学」を推進するため
の基本計画策定に向け
た専門家委員会を、静
岡市葵区のホテルで開
いた。写真。

全国の医療研究者や
大学の学長ら十二人が
出席。がん治療薬「オ
プジーボ」研究で知ら



れる京都大高等研究
院の本庶佑特別教授が委
員長を務める。

委員会では、県内の
医療データを集めて分
析し健康増進施策に反
映することや、生活習
慣から生じる病気を予
防するための調査方法
などについて話し合っ
た。委員からは「デー
タを集める際の定形や
ルールづくりが不可
欠」などの意見が出た。
本庶委員長は「長期
的にも短期的にも県民
にとって恩恵が受けら
れるような施策と人材
育成が重要」と述べ
た。県は二〇一七年度
中に計五回の委員会を
開き、基本計画を策定
する。(垣見窓佳)

【中日新聞】



先端医学棟が完成

最新の医療提供 県立総合病院

テープカットで先端医学棟の完成を祝う
出席者ら＝静岡市葵区の県立総合病院で

県立総合病院（静岡市葵区）の先端医学棟の落成式が十二日、同所であった。川勝平太知事ら二百人が出席し、完成を祝った。

新棟は二〇二五年十二月に着工し、百五十億円かけて整備。地上五階建て、延べ床面積二万六百万平方メートル。九月一日から利用でき

る。一階は放射線治療に特化し、二階は職員教育研修部、三、四階には二十二の手術室と、術後の高度な集中

治療室（HCU）を二

十室設けた。五階には遺伝子や統計の解析を通じて県内の医療関係者の臨床研究を支援するリサーチサポートセンターを設置し

た。式で県立病院機構の田中一成理事長は「県民に最新の医療を安全に受けもらえるようになった」とあいさつ。川勝知事も「富士

山に恥じない健康、医療技術、人材がここから輩出されるよう祈念したい」と述べた。テープカットの後、出席者が施設を見学した。

（山田雄之）

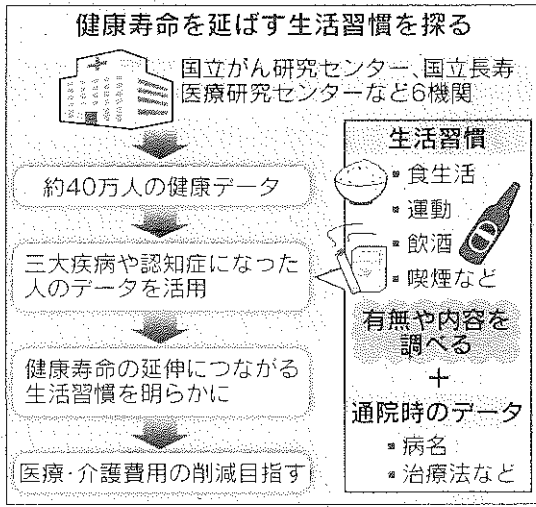
病防ぐ生活習慣 40万人を調査

がんや認知症で国立6医療機関

国立がん研究センターなど国の6つの専門医療機関はがん、心筋梗塞、脳卒中の三大疾病と認知症などになりにくい生活習慣を探るプロジェクトを始めた。約40万人を追跡調査し、病気になる人がどんな食生活や運動習慣だったかなどを調べる。自立した生活ができる「健康寿命」を延ばすための生活指針を2020年度にもまとめる。医療費抑制に役立つほか、健康増進サービスの拡大にもつながりそうだ。

食生活などは国ごとに異なるため、生活習慣と健康寿命の関係を知らずに日本独自の総合的なデータが重要だ。患者が多く医療費増大に影響する三大疾病と認知症などを対象とする。国は初年度の17年度に約4億5000万円の予算を充てた。国立がん研究センターのほか、国立循環器病研究センター、国立国際医療研究センター、国立長寿医療研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立成育医療研究センターが研究に加わる。約23万人分を持つがんセンターを中心に、それぞれ実施してきた調査データを持ち寄る。17年度は各機関が続け

健康寿命延ばす狙い



てきた調査票や患者の通院時のデータなどを活用する準備に入る。その後は共通の検査項目で、約40万人の健康状態を将来にわたり見守る。血液検査も活用する方針だ。データは提供者の同意を得

て利用し、個人が特定されないようにする。新たな研究では様々な病気のリスクを考え、どんな生活を送ると日本人で発症が少なくなるのかを総合的に探る。各機関はこれまでもデータを蓄積してきたが、がんなどの病気に生活習慣などの影響を調べていた。医療や介護に依存しな

▼健康寿命 寝たきりなどにならずに、日常生活を支障なく送れる期間を指す。厚生労働省によると、2013年の日本人の健康寿命は男性71・

19歳、女性74・21歳。平均寿命とは男性で約9年、女性で約12年の開きがある。この差を縮めることが医療や介護の費用削減につながる。

い健康寿命を延ばせる最適な暮らしを明らかにする。追跡で病気になる人とならなかった人の食生活、運動習慣、飲酒や喫煙の有無や量、肥満度などの関係を解析する。

例えば、少量の飲酒は心筋梗塞や脳卒中のリスクを減らすとされるが、がんなどを含め総合的に発症リスクを減らす飲酒の習慣を解明したい考え。20年度をめどに健康寿命を延ばすための指針の提言を目指す。30年度までに政策に反映できるだけの十分なデータを集める計画だ。

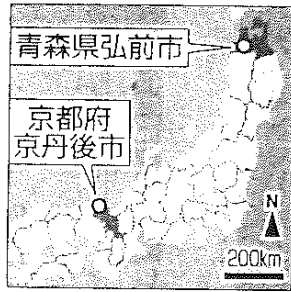
筋梗塞や脳卒中のリスク

欧米でも数十万人規模で健康状態を追跡する研究はあるが、遺伝子の特徴と病気のなりやすさを探るなど調査対象を絞り込む例が多いという。健康寿命を延ばす運動や食生活の内容が科学研究で裏付けられれば、健康を指南する民間サービスにも追い風になる。

【日本経済新聞(夕刊)】

京都府立医大と弘前大などのチームは、100歳以上の人口の割合が全国平均より高い京都府北部の丹後地域と、平均寿命が短いといわれる青森県の住民の健康状態を比較して、長寿の秘訣を探る研究を始める。14日から対象者を募集する。府立医大の場聖明教授は「生活習慣の秘密を調べ、長寿を他の地域にも広げたい」と話す。
住民基本台帳による

100歳以上多い京都・丹後



と、今年1月1日現在、町からなる丹後地域には人口10万人当たりの100歳以上は全国平均で約50人。京都府の京丹後市、宮津市、伊根町、与謝野

長寿の秘訣探れ

男性では世界最長寿とされた木村次郎右衛門さん(2013年に116歳で死去)も京丹後市在住だった。
青森県は、厚生労働省の近年の統計データで平均寿命が男女とも全国最下位となった年がある。

京都府立医大など

「短命県」青森と比較 8/9日経(4)

チームは、京丹後市で65歳以上の千人を募集し、15年間にわたり、健康診断をして栄養状態やホルモンのバランス、日常生活や食事内容など、計約2千項目を調査する。
弘前大などが実施している弘前市岩木地区の健康データと比較し、分析する。九州大などが長年調べてきた福岡県久山町の住民の診断結果も参考に